世界の初夢

核兵器廃絶が合意された、その時世界はどう動いているだろうか――今年は被爆四十周年。核軍拡競争が激化し、人類絶滅の危機が叫ばれているいま、核廃絶に着手した世界を考えてみるのも有益でしょう。東大助手で、放射線防護学の安斎育郎氏に「世界の初夢」と題し描いてもらいました。

核がなくなる日

安斎育郎

「ルルルルル」

海江田はベッドから手を伸ばして受話器をとった。午後の仕事についての相棒のシュミットからの確認の電話だった。

動き出したNUDE

国連の「核兵器解体機構」が発足してから、海江田やドイツのシュミットのように、各国から核問題の専門家が国際公務員として派遣され、核兵器を廃棄する仕事の段取りに忙殺されていた。

アメリカ中央部のカンザス・シティにある同機構はNuclear Disarmament Establishmentといういかめしい名前をもっていたが、仲間うちでは頭文字をとってNUDE（ヌード）と呼ばれていた。海江田は、核の鎧を脱ぎ棄てさせる仕事にいかにもふさわしい名前だと感じていた。現有の核弾頭だけではなく、その運搬手段や指揮・管制・通信システムはもとより、核兵器の生産設備や行政機構までのすべてを点検し、核軍備の脅威を一掃する容易ならざる仕事ではあったが、人類史上最大の危機のひとつがこうして回避されるのかと思うと、自然と力が入った。

NHK特集「核戦争後の地球」のシーン

核軍縮を求める国連決議は、すでに一九六一年には可決されていたが、いつも超大国の確執で葬り去られていた。しかし、八〇年代半ばから、反核・平和を求める人々の声がハリケーンのごとく世界を席巻し、状況が一変した。この頃、誤射された核ミサイルが敵国に向かったため地上信号で破壊するという事故が起こったことも国際世論に火をつけた。

超大国の指導者たちは、同盟国を含む世界の民衆の裏剣な叫びを無視できず、核軍備を廃棄する段取りについての交渉のテーブルにつかざるを得なかった。各国首脳が参加して世界軍縮会議が開かれ、核兵器完全禁止を確固として実現するための拘束力をもつ条約がつくられたが、それはまさに世界諸国民の熱烈歓迎を受けた。

海江田は核弾頭解体作業を推進するチームに属していた。核兵器用の濃縮ウランはおよそ二千トンばかりあったが、ごく一部が高濃縮のまま研究材料として残されたほかは、ウラン238で薄めて天然ウランなみの濃度にしたので、安全な保管に大きな困難はなかった。水爆材料の重水素化リチウムは、放射能も何も帯びていないから話は簡単だった。

軍事衛生回収も

少々やっかいなのはプルトニウムで、およそ二百トン余りあることが判明したが、これらは、危険な核的特性や化学的毒性を抑え込むための物質を添加して安定化し、堅牢な容器に密閉して、それまで戦略司令部として使われていた頑丈な山中のシェルターに格納され、各国からの専門家で構成される技術スタッフが常時監視していた。

こうして核兵器の解体が進むにつれて、諸国民の友好関係も好転してきた。核戦争に備えて地下のシェルターに格納されていたおびただしい量の食糧が、飢えで苦しむ発展途上国の難民救済に用立てられた。年間二百兆円を超えていた世界の軍事支出も半分以下に減り、なお減少しつつあった。

ネバダの核実験場で地下核爆発実験のための穴掘りをしていた企業は、石油を含む天然資源の採掘のためにその能力を振り向けた。何十万人もの科学者が人を能率よく殺りくする先端技術の研究から解放され、より生産的な事業に知的能力を発揮する場を見出していた。

受話器を置いた海江田は、快いまどろみを破ったシュミットに腹を立てながら玄関に放り込まれた朝刊の見出しに目をくれた。スペース・シャトルが米ソ二国間軍事衛星回収競技会で優位に立っていることが報じられていたが、同時に、審判団の乗った宇宙船が不調で、ソ連応援団の宇宙船に救助されたことも伝えられていた。海江田はもう一度ベッドにもぐり込み、毛布を引き寄せた。重水素化リチウムの白い粉末が初雪に舞う奇妙な夢を見た。（あんざい・いくろう）〔連合〕

佐世保に入港したアメリカの核空母エンタープライズ

園芸随想

空間を生かす

十四分会　田上勇

『有明新報』の催し紹介で柳川高校教諭・木下恵介氏の創作盆栽個展があることを知り、仕事帰りに会場に立ち寄ってみた。

閉店も近い時間なので観賞する人は二人ほどでしたが、熱心に見入っている。

私も見事な盆樹に圧倒されて見入っていると、作出者の木下氏が声をかけてこられ、初対面ではあったが作品の一鉢一鉢について、改作、さらに改作と、手を加えられた様子や苦労を重ねてもまだ納得できないものなど、わかりやすく教えていただいた。

「私は六年ぐらい前に、山川町の青輝園へ梅の展示会を見に行ったおり、青輝園一門の田中さんの盆樹、五葉松の石付けを見たとき、つまらなくなったりする、と教えられた。対象物によって七・三、あるいは六・四に位置せよとか教えられた。

『水かけ三年』『空間を生かせ』『あとは樹が教えてくれる』の三つでした。とくに空間を生かせということは私にとって盆栽作りの必須条件として心がけています」と、作品に手をかけながらくわしく教えていただいた。

そういえば広川町のサツキ原木の作出者・中野さんもそのようなことを教えてくださった。

以前、写真を少しばかりかじっているとき、同じように空間をどう撮るかでその写真が生きたり、かつて登山で見た岩場の風景を見た思いがして盆栽の世界に入った。

先生に教えを乞うたが無言でおられた。日曜日ごとに通い、相変わらず無言でそばに私がおることなど無視して作品に手を入れておられ、一年ぐらい経ってからやっと教えてもらえるようになった。今は故人となられましたが、先生は

私が盆栽をはじめたころ、先生が惜しげもなく枝を切っておられたが、それは樹形のバランス、それも空間を作ることであった。

「空間を生かせ」。これは私にとって樹形作りを見直す重要な一言であった。

随想

心の故郷

高槻市　黒川広

「『みいけ』で見たばん」と、昨年の新年号に載った私の下手な文章でも、鹿児島、熊本、千葉のかつての〝炭掘る仲間〟からのあいさつ電話を受けた。

生まれ故郷、宮崎の幼友達は炭鉱には関係ないが、知人から聞いたとのことで機関紙『みいけ』の広範囲さを知らされた。

今年の八月、フェリーと高速道路を使って両親の墓参りに宮崎に帰省した。兄や姉の家にいても、長年苦楽を共にした職場や地域分会の元仲間の顔が浮かんでくる。

宮崎での三倍の日数を勝立、三池、吉野、荒尾と先輩や親友たちとの再会で過ごした。やっぱり話の中心は安保と三池でたたかったときのこと。……怒ったり、笑ったりの話は尽きない。

孫の相手や、ゲートボールに熱中しているKさん。盆栽の丹念な手入れに余念のないTさん。行動隊で活躍したS君も、子供三人が立派に成長して貫録十分の話で活躍している様子。いずれも激動の時代を十分にたたかった誇りと、私が住んでいた馬渡社宅は、三年前に壊わされて雑草がしげっている。○○さんは……。××さんは……。そして、どこで健在だと聞くとうれしい。

私の生まれ故郷は宮崎だが、用件のあるときはもちろんだが宮崎に所用のないときでも、自然と足が、車が〝三池〟に向かう。

私は思う。三池が、大牟田が、激動の中で暮らした、精いっぱいたたかった〝心の故郷〟だと。

随想

賀状雑感

高槻市　緒方進

昨日作ったばかりの、水野さん夫妻の二種類を含め、今年作った賀状十六種類の木版ゴッコ印刷を見比べ、カット・絵、文章の選定がはじまる。

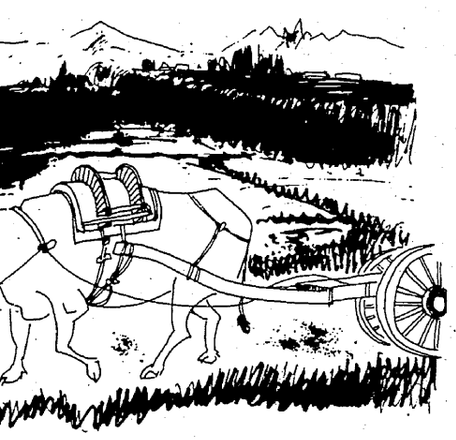
毎年のことで手なれた石田さんが〝のどかなる春に、牛いななく風景〟を選ぶ。

「とうちゃんが自分からいい出して自転車を孫に買ってやる約束を受けたが重なったために断念されどき、それぞれ帰途につく。

大阪城公園大ホールでの〝日本のうたごえ〟も、今ごろは原守男さん指揮の『地底の歌』をはじめ大合唱も成功裏に終わったころだと思った。

明日が公休日の梅崎さんの四種類で友人、親せき関係は全部終わる。残りは木版画、ブラッシングを含む私の分六種類八百枚余の作成である。

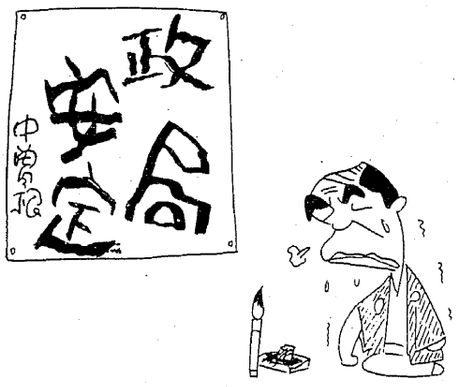
虚礼だ、形式だという人もいる。でも私はそうは思わない。五十年前の恩師への感謝、六十年安保と



雑詠

松永一郎

親しみが朋友につながる年賀状
「おめでとう」賀状にこもる親友の味
新年に賀状と電話の「おめでとう」
ヤマの保安祈るみんなの初日かな



書きぞめ
「安定した字が書けない」　はらたいら

ウシ年八五年

愛知　平野武

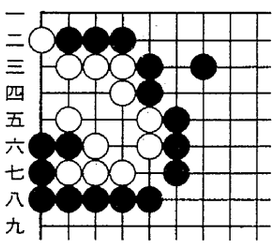
ウ　初初しさも
シ　新年ならば
ド　どうか今年も
シ　幸福に
ハ　働く者の
チ　力の団結
ジ　自衛のために
ユ　許せぬファッショ化
ウ　ウソ政治
ゴ　強引政策　etc

新春詰碁

出題　日本棋院　加納嘉徳　九段

問題　黒先、白の生死は？

〈ヒント〉黒一子の捨て石で、白のダメ詰まりを利用して殺せる。（五分で三段。とにかく解ければ三級以上）。



新春詰将棋

出題　日本将棋連盟　佐瀬勇次　八段

新年文芸

短歌

新年雑詠

十一分会　町佳郎

帽灯を修理（つくろ）い充電監視に励みきて
移り来し職場に暮れの迫りぬ
にぎわえる歳末の町過（よ）ぎりきて
ポインセチヤの花一つ購めぬ
賀状書く手を休めしまし読みいたり
防衛費枠はずさんと論（あげつら）う記事
新年の熱き希望（のぞみ）も色あせて
わびしき思いにまたよわい重ぬる
元日の庭木々に遊ぶすずめ子の
梢（うれ）揺らしつつまたとびたちぬ

寒気団

木村守

寒気団南下し寒き風の空
とげつんつんと椋のはだか木
貧の癖棲まわせ居れば
われ集め妻集め冬に騙し得ぬ花弁
うつうつと統（す）べ得ぬ心絶えなくて
以心伝心と謂うを頼りぬ
どこからか小鳥が媒輸して
二本万両という木の育つ庭
胸灼けていても避くことならざりし
甘藷ばかりの餉を思いけり

古稀の春

高椋竜生

坑帽の三本線に餅飾り
古来稀なる春を祝いぬ
戦争に怯え差別に歯ぎしりせしこと
嘘のごと古稀を迎えぬ
組合長定年を機に三池闘争
二十五周年を語る会おこさんとする
六人の孫の名のひとりずつ呼びて
年玉わたすが生甲斐となりぬ

俳句

四分会　村中利行

いくさよあるな胸に冬陽を溜めいる血
「パパママバイバイ」枯木立ぬけ刻む声
生命削った坑夫の飢餓か鳩も哭く
すさむ社宅の水仙だけが美しい
冬ざれの野のごとカールビンソン背を走り

谷口周

遺影鉱帽ひともしてあり寒ビール
いつまでも遺影は若し葱の花
年金もなく妻の座に日向ぼこ
子守唄湖底に沈め枯野バス
耳飾りキラリと鳴かせ枯野バス